

世界の国を知る 🌐 世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来



ドミニカ共和国



【表紙の写真】

(左上)

豊かではないけれど、自然の中で
強くたくましく、輝いて生きている
子どもたち

(右下)

毎日違う表情をしているカリブ海にいつも
パワーをもらいました。漁師たちは毎朝6時
にこの海から出発していきます。



松尾摩耶

Contents

- 01 こんな想いを込めました!
- 02 こんな教材です!
- 03 なぜドミニカ共和国?

第1章 ドミニカ共和国ってどんな国?

=踊って混ぜて、混ぜて踊って
文化融合が得意なカリブの国=

- 05 カリブ海&ドミニカ料理にまつわるウソ?ホント?
- 07 踊りだあ〜い好きドミニカ人♪
- 09 「ジェラシックパーク」それはドミニカから始まった?
- 11 ちょっとブレイク
ドミニカ共和国ってこんな国
料理からひもとくドミニカヒストリー

第2章 へえ〜! ドミニカ共和国と日本

- 13 ドミニカ共和国と日本 野球くらべ〜!
- 15 「黄金の国ジパング」と「天国にも勝る島」
- 17 コロンブスの航海路

第3章 一緒に考えよう! こんな課題

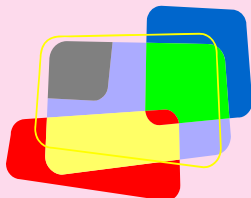
- 19 1つの島に2つの国
- 21 もしも電気がなかったら
〜ドミニカ人的人生の楽しみ方〜
- 23 ドミニカに渡った日本人
- 25 フォトギャラリー

第4章 そして未来へ

- 27 『多文化共生社会』ってどんな社会?
- 28 号外! 号外! 20年後の新聞です
- 29 多文化共生社会と地球的課題

参考資料

- 31 目で見るドミニカ共和国
- 33 ドミニカ共和国地図
- 35 参考文献・データ等の出典
- 35 ご協力いただいた方
- 35 2008年度教材作成チーム



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい/つなげていきたい/
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



● 国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

● 人の顔が見える教材をつくりたい！

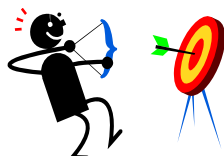
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ〜。こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

● 世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくるとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

● 未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

●ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としています。本書自体は、ファシリテーター（参加型プログラムの進行役）や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

●参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようというプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にいただければと思います。

●きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、ドミニカ共和国のほんの一面です。本書だけでドミニカ共和国のすべてがわかるわけではありません。ドミニカ共和国に親しみを感じ、関心をもってもらおうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

●使い方は自由です

とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。

●カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

●本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一口コラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



参加型のプログラムです。
必要に応じてコピーし、配布してください。



プログラムで模造紙を使います。



プログラムに関する説明です。
ファシリテーター・先生用です。



プログラムでマジックを使います。



プログラムのねらいです。



プログラムで付箋を使います。



ちょっとブレイク！一口コラムです。



プログラムでA4用紙を使います。
裏紙等を活用してください。



プログラムに使う資料です。
必要に応じてコピーし配布してください。



データ等の出典です。



コピーし、カード等に切り離して
使ってください。



写真の撮影者です。



なぜドミニカ共和国？

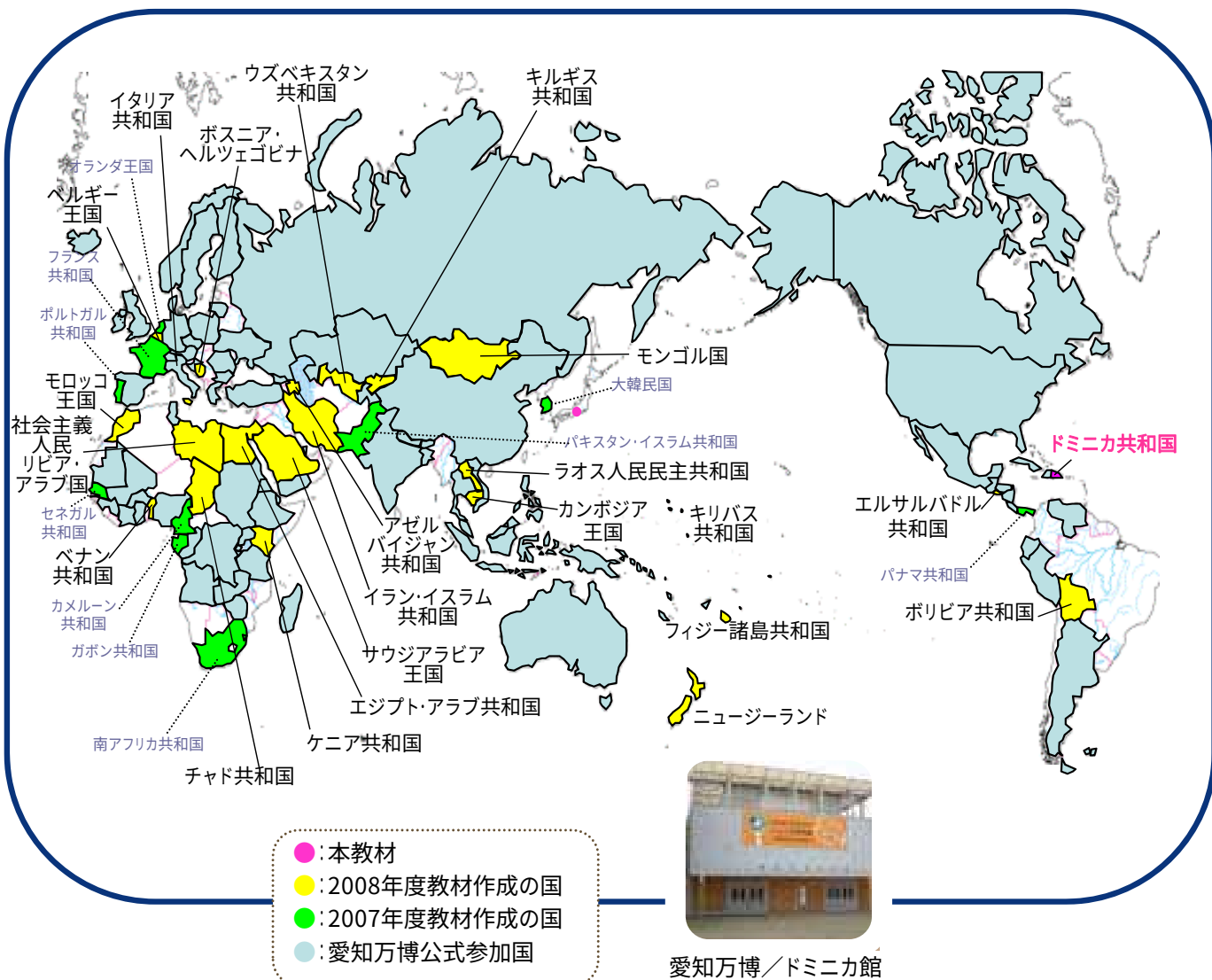
始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国フレンドシップ事業」

2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国（日本を除く）のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国フレンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけではなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国フレンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。

そして、**ドミニカ共和国**のホームシティは、**田原市**でした。



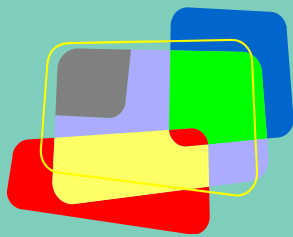


第1章

ドミニカ共和国ってどんな国？

＝踊って混ぜて、混ぜて踊って

文化融合が得意なカリブの国＝



カリブ海&ドミニカ料理にまつわるウソ？ホント？



ドミニカ共和国は、カリブの真ん中に位置する国です。

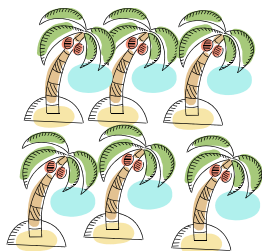
カリブと言えば、何を思い出しますか？カリブの海賊、ビーチリゾート、カリビアンブルー、コロンブス…？



1 カリブ海はもともと「人食い人種が住む海」という意味だった。



2 カリブ海には約1,000の島がある。



3 カリブにはドミニカという国が2つある。



4 1492年、コロンブスが最初に到達したのは、現在のドミニカ共和国である。



5 カリブを代表するお酒としてラム酒があるが、カリブの海賊たちはこのラム酒のことを「グロッグ」と呼んでいた。



6 ドミニカ共和国はメキシコに近いので、お料理もメキシコ料理に似ていて、とっても辛い！



7 ドミニカ共和国の主食はもちろんパンです。



8 ドミニカ共和国はカリブ海と大西洋に囲まれた島国なので、肉よりも魚をよく食べます。



9 ドミニカ共和国の一般的な料理「バンデラ」というのは、イモの種類を意味します。





P.5のこたえと解説です。



ドミニカ共和国の概要をざっくりと把握し、
親近感を感じる。

- 1 **ホント** コロンブスが、カリブ海を中心に勢力を持っていた「カリブ族」に出会い、「敵を殺して食べてしまう人種」とスペインに伝えたため、そのような意味がついてしまったそうです。ちなみに、カリブ海に住む現地民も欧米から来た白人を「人を食べる」と思っていたそうですし、マルコ・ポーロが記した「東方見聞録」では、日本人も人を食べると紹介されています。そのころ異民族のことはみんなそんな風に思ってしまったのですね。
- 2 **ウソ** 何と7,000以上の島があると言われています。
- 3 **ホント** ドミニカ共和国とドミニカ国があります。
- 4 **ウソ** 1492年、コロンブスの一行はアジアを目指してスペインを出発しますが、到着したのは、バハマ諸島のひとつサン・サルバドル島でした。そのあとイスパニョーラ島につき、そこがジパングだと確信していました。
- 5 **ホント** サトウキビを原料とするこのお酒はとても強く、グロッグは「グロッキー（英語ではgroggy: 疲れてふらふらな様子）」の語源となっています。
- 6 **ウソ** ドミニカ共和国の料理は辛くありません。また、コーヒーもエスプレッソにたくさんの砂糖を入れるので、やたら甘い!です。
- 7 **ウソ** ドミニカ共和国の主食は米です。パラパラとしたインディカ米です。
- 8 **ウソ** 一部の漁村を除き、魚を食べる習慣はありません。ただし、干シタラやニシンの燻製はよく売られています。
- 9 **ウソ** バンデラというのは、「国旗」という意味です。これは、ドミニカ共和国の一般的な料理で、米とインゲン豆スープ、肉とサラダのセットです。米の白と豆スープの赤茶色が、国旗の色と同じためこう呼ばれています。

ドミニカ料理は混ぜる！混ぜる！とにかく混ぜる！

ドミニカ共和国の日常的で一般的な料理は「**バンデラ**」です。塩と油を少し加えて炊いた「ご飯」、金時豆とトマト、ピーマン、玉ねぎ、にんにく、オレガノを一緒に煮込んだ「豆スープ」、トマトやピーマンと煮込んだ「肉」、そして「サラダ」のセットで、それぞれ別の皿に盛られて出てきます。これを混ぜ合わせていただきます。

冠婚葬祭や誕生日、来客など特別な日に出されることが多い典型的な料理としては、「**サンコーチョ**」があります。これは、いわゆる「ごった煮」。トマト、ピーマンなどを煮込んだスープの中に、何種類かのイモ、プラタノ（料理用バナナ）、カボチャ、トウモロコシ、肉類を加えて煮込みます。ご飯と一緒に出されますが、ご飯もスープの中に入れて混ぜていただきます。スープや具はさまざまで、それぞれの「家庭の味」があるようです。

その他、プラタノを揚げたものやゆでたもの、イモをつぶしたものなど、イモ類やバナナがよく食事に使われます。また、魚のココナッツミルク煮など、ココナッツミルクを使った料理もよく作られます。



バンデラ



プラタノ

ドミニカ共和国にはその歴史とともに、スペイン、アフリカ、アメリカなどからさまざまな食材が持ち込まれましたが、そうした食材をうまく混ぜ合わせながら、今日のドミニカ料理を作り上げてきたのです。



イスパニョーラ島の「イスパニョーラ」というのはスペイン語でHispaniola。コロンブスが上陸したとき、「小さなスペイン」という意味で名づけたそうです。

踊りだぁ〜い好きドミニカ人♪



ノリのいい音楽を流したとき腰をゆらゆらしている人がいたら、その人は間違いなくドミニカ人! というとドミニカ人は踊り好き。ドミニカの音楽ってどんな音楽??

- 1 ドミニカ共和国の音楽といえば「メレンゲ」が有名ですが、「メレンゲ」というのはどんな音楽でしょう?
次のヒントを参考にして、グループで想像してみましょう。



ヒント1

『メレンゲ』はラテン音楽ですが、ラテン音楽といえばほかに、サルサ、レゲエ、マンボ、チャチャチャなどたくさんあります。



ヒント2

『メレンゲ』というのは、ドミニカ共和国の音楽のほかに、「卵白と砂糖をかき混ぜて焼くお菓子」の名前でもあります。卵白を泡立てる時の音と似ていることからこの名前がついたとも言われています。



ヒント3

ドミニカ共和国の人々は、この『メレンゲ』に合わせていつでも、どこでも踊っちゃいます。

- 2 では、グループごとに「メレンゲってこんな音楽だよ!」というのを実演して発表してみましょう。

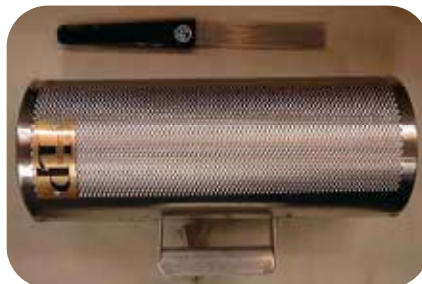
【発表後、メレンゲについて説明】(P.8参照)

- 3 次の写真は、何の写真だと思いますか?

A



B



C



ドミニカ人の踊り好き、音楽好きは半端じゃない! 公共のバスの中でも音楽がなっていると、大合唱してしまいます。



♪ これが『メレンゲ』 ♪

ドミニカ共和国で人気が高い音楽は、メレンゲ、サルサ、レゲトン、バチャータ。中でもメレンゲは、ドミニカ共和国が発祥の国と言われています。1850年ごろ、ドミニカ共和国がスペインから独立したころから人々の間で広まっていたそうです。

メレンゲは2拍子。タンタンタン・タカタカ・タンタンタン・タカタカという単純なリズムの繰り返しです。この音楽に合わせて男女のカップルが踊るのですが、基本的には、カップルがゆっくりと登場するパセオと呼ばれる部分と勢いよく回って踊るハレオと呼ばれる部分から成っています。古典的なメレンゲは、ギター、タンボーラ（筒型の太鼓）、こすって音を出すグイラ（**B**の写真参照）で演奏します。テンポや旋律などによってメレンゲ・モデルノ、メレンゲ・ティピコ、メレンゲ・アバンピチャオ、メレンゲ・デ・サロンなどの種類があります。

ドミニカ共和国には、メレンゲのほか、サルサ、バチャータ、レゲトンなどの音楽があります。サルサは、キューバやプエルトリコのダンス音楽にジャズなどいろいろな音楽の要素が合わさった音楽で、いろいろな味があわさったスペイン料理の「サルサ・ソース」から来ています。バチャータは、ドミニカ共和国独特のリズムを奏でますが、メレンゲとちがって4拍子。バチャータは「お祭り騒ぎ」という意味があるそうですが、どちらかといえば、スローテンポです。



そして、レゲトンはプエルトリコが発祥でラテン系ヒップホップといったところでしょうか。

スペイン人が入植したときもって来たヨーロッパの伝統的な音楽と、労働者としてたくさんやってきたアフリカ人が持ってきた宗教をベースにしたアフリカ音楽とが融合してできあがったのが、ドミニカ音楽です。インターネットで視聴もできますので、みんなで聞いてみても楽しいでしょう。

踊る！踊る！ドミニカ人

A メレンゲフェスティバル

毎年7月、サントドミンゴで開催されるフェスティバル。フェスティバルが行われるマレコン通りは「世界最大の野外ディスコ」と呼ばれるぐらい大勢の人たちが集まり、ラテンのリズムに合わせて踊るのです。

B グイラ

表面を擦って、メレンゲの独特なビートを奏でます。

C 洞窟レストラン

一見普通のレストランのようですが、実はここは洞窟の中。ドミニカ共和国には、先住民タイノ族が住んでいた洞窟がたくさん残っています。タイノ族と洞窟には悲しい歴史があるのです。スペイン人が入植してからほんの数十年前で、35万人いたとも300万人いたとも言われるタイノ族は、虐殺や病気で絶滅してしまいます。スペイン人の虐殺から逃れようと、隠れたのが洞窟。洞窟にはタイノ族が描いたといわれる絵がたくさん残されています。

また、ドミニカ共和国の北部はカリブの海賊の基地があったとも言われており、洞窟は海賊の隠れ家で、財宝が隠されていたとか。その財宝を探したと思われる痕跡も残っているそうです。

そんな悲しくてロマンティックな謎にあふれた洞窟も陽気なドミニカ人はレストランやディスコにしちゃいます。洞窟ディスコでメレンゲを踊っちゃうのが、底抜けに明るいドミニカ人なのです♪



「ジェラシックパーク」それはドミニカから始まった？



スピルバーク監督の映画「ジェラシックパーク」は見たことがありますか？
実はこの映画、ドミニカ共和国と深い関係が…。さて、どんな関係でしょう??

1 今からみんなで映画「ジェラシックパーク」のDVDの最初の部分を見てみましょう。

(DVD鑑賞)

続きが見たい人は、ぜひ見てみてくださいね。

さて、今見ていただいたジェラシックパークの最初の部分のストーリーを書いた文書を配りますので、映像を思い出しながら、みんなで読んでみてください。



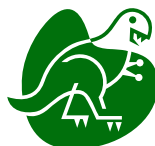
アリゾナの砂漠地帯で恐竜の化石の発掘調査を続ける生物学者のアラン・グ
ラント博士と古代植物学者のエリー・サトラー博士は、突然やって来たハモンド財団の
創立者ジョン・ハモンド氏に、3年間の資金援助を条件にコスタリカ沖の孤島へ視察に来
るよう要請されます。視察には、数学者のイアン・マルカム博士、ハモンド氏の顧問弁護士
ドナルド・ジェナーロ、それにハモンド氏の2人の孫も招かれていました。

島に到着してみると、彼らの目の前に現れたのは群れをなす本物の恐竜たち。このジュ
ラシック・パークは、ハモンド氏が巨額の資金を投じて研究者を集め、化石化した琥珀に
入っていた古代の蚊から恐竜の血液を取り出し、そのDNAを使い、クローン恐竜を創り出し
たテーマパークだったのです。

早速、博士たちはコンピュータ制御された

2台の車に乗ってテーマパークのツアーに

で出かけるのですが、そこに待ち受けていたのは…。



2 今みんなが読んだストーリーの中に、実はドミニカ共和国ととても深い関係のあるものが含まれていま す。さてさて、それは何でしょう？ グループで考えてみましょう。

(解説をきいた後)

3 みんなだったら、どんなものを琥珀の中に閉じ込めたいですか？

グループで自由に話してみましょう。



こたえは、「化石化した琥珀に入っていた古代の蚊」でした。

ドミニカ共和国は琥珀の名産地で、ジェラシックパークで使われた琥珀もプエルト・プラタにある琥珀博物館に展示されているものです。スピルバーク監督が直接交渉し、撮影に使ったそうです。

琥珀って宝石??

琥珀というのは、太古の時代の本々の樹脂が固まった化石のことです。宝石ではありませんが、準宝石としてアクセサリーなどにも使われています。樹脂の中に、植物や昆虫、小動物がそのまま閉じ込められて固まってしまったものもあり、ジェラシックパークの蚊も何万年以上も前の地球に生きていて、恐竜の血をすったまま閉じ込められて、そこからDNAを取り出したわけです。

「琥珀色」ということばが使われるように、一般的に知られているのはアンバー色（黄褐色。ウイスキーの色によくたとえられます）ですが、実際には、白、赤、黄、緑、青、黒などあります。琥珀は世界中で取れますが、バルト海沿岸のバルト三国、ロシア、ポーランド、ドイツなどと、ドミニカ共和国が2大産地です。琥珀は、透明度が高く、中に虫、木の葉、花などが封じ込まれてたものが高価ですが、ドミニカ共和国の琥珀は世界で最も透明度が高いと言われ、中でも「ブルーアンバー」や「グリーンアンバー」は産出量が少なく、貴重です。



ドミニカ共和国にしかない石がある!?

「ラリマール」という石が、ドミニカ共和国にしかない石です。正式名は「ペクトライト」といい、美しい青色をした「ペクトライト」を「ラリマール」と呼ぶそうです。「ドミニカ共和国のトルコ石」とも呼ばれますが、トルコ石より柔らかいやさしいブルーをしています。

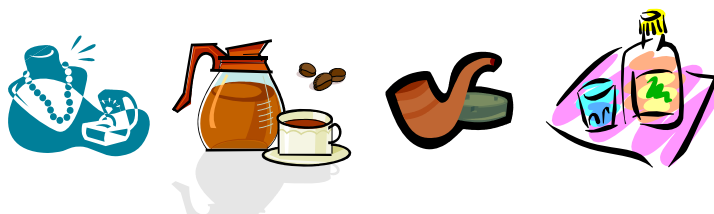
発見されたのは1974年。ドミニカ共和国西部のパライソ川河口で、地質学者のミゲル・メンゲル氏によって発見されました。ミゲル氏の奥さんは日本人。娘のラリッサちゃんの「ラリ」と海を意味する「マール」を組み合わせるとラリマールと名づけられたそうです。

 松尾摩耶



ドミニカ共和国の特産品

琥珀やラリマールのほか、コーヒー、葉巻、ラム酒などが特産品です。





ちょっとブレイク



ドミニカ共和国ってこんな国

ドミニカ共和国は、カリブ海ではキューバについて2番目に大きいイスパニョーラ島の東部3分の2を占めます。残りの3分の1はハイチ共和国です。カリブ海地域で最も歴史的遺産が多く、美しい自然を求めて世界中の人たちが観光にやってきます。1492年、コロンブスが到達して以来、苦難の歴史を乗り越え、様々な文化をうまく融合して、現在のドミニカ文化を築いています。底抜けに明るいドミニカ人気質も魅力的です。

● 今もコロンブスが息づく街、首都サント・ドミンゴ

首都サント・ドミンゴはカリブ諸国の中で最も大きく、最も古く、スペイン植民地時代の面影が残るソーナ・コロニアル(旧市街)と近代的な新市街の2つの顔を持つ街です。コロンブスは、ヨーロッパ人で初めてイスパニョーラ島に到着し、現在のサント・ドミンゴを造りました。大航海時代のことです。(→P.17)。そのため、サント・ドミンゴは、コロンブスにまつわる歴史的建築物がとて多く残され、ソーナ・コロニアルは世界遺産に指定されています。コロンブスは、サント・ドミンゴを「キスケージャ」(母なる大地)と呼んで愛し、遺言によりその死後、大聖堂に安置されました。その遺体は、新大陸到達500周年を記念して1992年に立てられた、コロンブス記念灯台に移され、現在もそこで眠っています。

● 先住民の悲しい歴史

コロンブスが到達する前、イスパニョーラ島にはアラワク族タイノ人が住んでいました。アラワク族は南米に住む先住民で、カリブ海の島々を渡り住んでいたと言われていました。スペイン人が島に到達した以降は、金山などで強制労働を強いられたり、ヨーロッパ人が持ち込んだ疫病にかかったりして絶滅してしまいます。

ロス・トレス・オホスは、そんな先住民がスペイン人の征服から逃れようとして隠れ住んでいた洞窟です。「3つの目」という意味で、発見されたとき3つの泉があったことから名付けられました。現在は4つめの泉もみつかっています。

ドミニカ共和国には同じような洞窟がたくさんあります。例えば、ドミニカ共和国の西部、ハイチとの国境に近いエンリキリヨ湖のあるエンリキリヨ盆地の入り口ネイバにはスペイン人の「インディオ狩り」に最後まで抵抗した英雄エンリキリヨの像が建てられていますが、その近くには巨大な洞窟ラス・カリタスがあり、タイノの絵が残されています。

でも、そんな洞窟をディスコにしまうほど(→ P.8)、ドミニカ人は明るいのです。

ドミニカ共和国には他に、コロンブスが光輝く海を見て「銀の海」と名づけたリゾート地プエルト・プラタ、避暑地として有名なハラバコア、日本人移住者が初めて到着したダハボンなどの街があります。

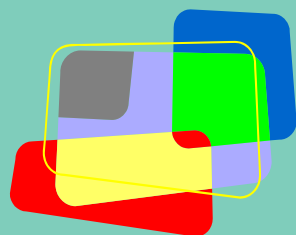
料理からひもとくドミニカヒストリー

- 紀元前～ タイノと呼ばれる先住民が住む▶タイノ人は、焼き畑などで生活していたと言われてい
す。自然環境にあわせたトウモロコシ、マニオク、里芋、
さつまいも、カカオ、ピーマンなどを食材としていました。
現在でも、マニオク(キャッサバとも言う)のデンプンを
焼いたパンが食べられています。
- 1492年 コロンブスによるイスパニョーラ島発見▶米、豆類、小麦、チーズ、牛、豚、鶏、ヤギなどがヨーロッパ
から持ち込まれました。
- ～16世紀中ごろ カリブ海の奴隷市場の中心となる.....▶奴隷の輸送に伴って、料理用バナナ、山芋などのイモ
類、グアンドゥールなどの豆などの食材が持ち込まれま
した。
- 1795年 イスパニョーラ島全島がフランス領となる
- 1804年 ハイチとしてフランスから独立
- 1844年 ハイチから独立
- 1861～65年 スペインに合併
- 1916～24年 アメリカ合衆国による軍事占領▶アメリカ合衆国の影響により米とインゲン豆の食事が
庶民一般にも広まりました。



第2章

へえ～！ドミニカ共和国と日本



ドミニカ共和国と日本 野球くらべ～！



ドミニカ共和国といえば、野球を思い出す人も多いはず。
さてさて、次のクイズにあなたは答えられますか？

- 1 まずは、ドミニカ共和国と日本の野球についてのクイズです。答えはドミニカ？ それとも日本？
こちらだと思ふ方の旗を挙げてください。(こちらと思ふほうへ移動してください)

1 プロ野球リーグができたのは、どちらが先？

2 2008年現在、プロ野球チームが多いのはどっち？

3 2008年現在、今までメジャーリーグに所属した選手の合計数が多いのはどっち？

- 2 では次に、ドミニカ共和国の野球についてです。これは、ウソ？ ホント？

4 ドミニカ共和国には、日本のプロ野球チームが作ったベースボールアカデミーがある。

5 ドミニカ共和国のプロ野球はウィンターリーグと呼ばれ、冬に行われる。

6 カリビアン・リーグというのは、ドミニカ共和国代表対キューバ代表の試合のことを言う。





1 プロ野球リーグができたのは、どちらが先？



先にプロ野球リーグができたのは、ドミニカ共和国です。

ドミニカ共和国で野球が始まったのは1900年ごろと言われています。キューバからの移民たちから伝えられ、さとうきび農園などの地主たちが、お金のかからない娯楽として労働者に道具を提供したそうです。1916年からドミニカ共和国はアメリカ合衆国の軍事占領を受け、政治的な戦略の1つとして野球が利用されたようです。プロ野球リーグが発足したのは1922年。当時は2チームのリーグでした。

一方、日本で野球が始まったのは1872年(明治5年)。東京大学の前身第1高等中学校のアメリカ人教師ホレス・ウィルソン氏が学生に球を捕らせたのが始まりと言われています。「野球」ということばが使われたのは、1897年からだそうです。そして日本のプロ野球が誕生したのは1934年(昭和9年)。ペーブールスなどアメリカの大リーグ選抜チームが来日し、そのとき対戦した全日本チームが中心となって、現在の読売ジャイアンツの前身大日本東京野球倶楽部が誕生しました。

2 2008年現在、プロ野球チーム多いのはどっち？



日本です。日本はセ・リーグ6チーム、パ・リーグ6チームの12チームですが、ドミニカンリーグは6チームです。特に首都サント・ドミンゴに拠点を置きリセイ(チームカラーは青)とサンティアゴに拠点を置くアギラス(チームカラーは黄色)のファンは熱狂的で応援もものすごいそうです。ちなみに、メジャーリーグは、アメリカリーグ14チーム、ナショナルリーグ16チームの30チームです。

3 2008年現在、今までメジャーリーグに所属した選手の合計数が多いのはどっち？



断然ドミニカ共和国です。ドミニカ共和国は472人。日本は44人なのです。サミー・ソーサ、ペドロ・マルチネス、アレックス・ロドリゲスなど有名な選手がたくさんいますが、毎年約100人がメジャーリーグで活躍しています。メジャーリーグの各球団も優秀な選手を育て獲得するため、多くのチームがドミニカ共和国に、ベースボール・アカデミーを開校しています。

4 ドミニカ共和国には、日本のプロ野球チームが作ったベースボールアカデミーがある。



ドミニカ共和国第3の都市で、ドミニカ野球発祥の地、メジャーリーガーの宝庫とも言われるサンペドロ・デ・マコリスに広島東洋カープのアカデミー オブ ベースボールがあり、若手有望選手の育成に力を入れています。サンペドロ・デ・マコリスは、サミー・ソーサ選手の出身地です。

5 ドミニカ共和国のプロ野球はウィンターリーグと呼ばれ、冬に行われる。



ドミニカンリーグは、アメリカのメジャーリーグが終わった10月～1月に行われます。そのため、メジャーリーガーも帰国して参戦したり、日本のプロ野球選手がキャンプの代わり(?)に参加したりします。

6 カリビアン・リーグというのは、ドミニカ共和国代表対キューバ代表の試合のことを言う。



ドミニカ共和国だけでなく、プエルトリコ、メキシコ、ベネズエラでもウィンターリーグが行われ、それぞれの優勝チームが、中米カリブの優勝を決めるため2月に行うのが、カリビアン・リーグです。カリビアン・ベースボール・ワールドシリーズとも呼ばれます。2008年のカリビアンシリーズは、ドミニカ共和国で開催され、2チームが出場しました。優勝はドミニカ代表の1つ、リセイでした。

「黄金の国ジパング」と「天国にも勝る島」



みなさんは「クリストファー・コロンブス」を知っていますか？ カリブの島々では、何度も耳にする名前です。では、グループに分かれ、P.17の地図を見ながらクイズに答え、コロンブスの足跡をたどってみましょう。



クリストファー・コロンブスはイタリア、ジェノヴァ出身の冒険家です。(ただし、いろいろな説があります。) 彼は15世紀末ごろに唱えられていた「地球球体説」の影響を受け、西へ西へと進み続ければアジアに到達できると考えました。

- 1 さて、コロンブスがアジアに行きたいと考えたのはなぜでしょう？
☐ A マルコ・ポーロの「東方見聞録」に影響された
☐ B スペインのイザベル女王の命令だった
☐ C ポルトガルと元(現在のモンゴル)は強い関係があった
- 2 マルコ・ポーロの「東方見聞録」で日本は「黄金の国ジパング」と紹介され、金でできた寺があると書かれていますが、その寺とはどこのこととされているでしょう？
☐ A 金閣寺(京都) ☐ B 銀閣寺(京都) ☐ C 中尊寺金色堂(平泉)
- 3 資金のめどがついたコロンブスは、1492年8月3日、3隻の船でアジアを目指し、パロス港を出発しました。長い航海の末、ある島に着きますが、コロンブスが最初に到着したのはどこの島だったでしょう？
☐ A ドミニカ島 ☐ B イスパニョーラ島 ☐ C バハマ諸島
- 4 コロンブスはイスパニョーラ島をどこだと思っていたでしょう？
☐ A インド ☐ B 日本 ☐ C アメリカ

船の1隻が座礁してしまったので、コロンブスは部下の1部を残して帰路につきます。1493年3月15日、パロス港に戻ったコロンブスは、大歓迎で迎えられました。そして半年後、多くの資金援助を得て、2回目の航海に出発したのです。2回目の航海では、小アンティル諸島のドミニカ島に着いたあと、プエルト・リコを経て、イスパニョーラ島に戻ります。イスパニョーラ島で、新大陸最初の都市イサベラ(現在の首都サント・ドミンゴ)を建設し、弟のバルトロメにその統治を任せ航海を続けますが、再びイスパニョーラ島に戻ってくると、スペイン人と先住民との争いや熱病などで街は混乱に陥っていました。

- 5 この時コロンブスは、イスパニョーラ島北部の海岸を訪れ、「プエルト・プラタ」と名づけます。さて、「プエルト・プラタ」とはどういう意味でしょう？
☐ A 銀の海 ☐ B 大西洋の花嫁 ☐ C 新しい国

コロンブスはさらに3回目の航海にでかけますが、その時もなお、アジアに到着したと信じて疑わなかったそうです。サント・ドミンゴでは、弟の統治の悪さから反乱が起きており、その責任を問われ、コロンブスは犯罪者としてスペインに戻ることになります。それでも何とかして1502年、4回目の航海へと出かけますが、イスパニョーラ島に上陸することは禁じられていました。最後は難破して救助され、スペインへ戻りますが、帰国後は病気になり、1506年に亡くなりました。その遺骨はスペイン、セビリヤの修道院に納められましたが、本人の意志によりドミニカ共和国サント・ドミンゴの大聖堂に移されました。現在は、新大陸到達500年を記念して建てられたコロンブス記念灯台に納められています。



日本では、クリストファー・コロンブスと言っていますが、スペインではクリストバル・コロン、イタリアではクリストフォロ・コロンボです。日本の呼び方では通じないかもしれませんね。



P.15のこたえと解説です。



よく知られているコロンブスの「黄金伝説」にも実は、ドミニカ共和国が関係していることを知り、ドミニカを身近に感じる。

① A

② C

③ C

④ B

⑤ A

黄金の国ジパング

マルコ・ポーロ(1254年～1324年)はヴェネチア共和国(現在のイタリアの一部)の旅行家です。16歳のとき、貿易商人だった父親と一緒にアジアへ行き、当時帝国を築いていた元の初代皇帝フビライ・ハーンに仕えます。1295年にヴェネチアに戻りますが、1295年に始まったヴェネチアとジェノバの戦争で捕虜となり、その獄中で口述で記したのが「東方見聞録」と言われています。

「東方見聞録」の中で日本は「ジパング」と呼ばれ、「東方、大陸から1500マイルの海にある島。人々は色白で礼儀正しい。莫大な黄金があり、宮殿や民家は黄金でできている。また、この国は多量の真珠を産する。この島に生えている木々は、いずれも強い芳香を放つ貴重な香木。黒胡椒はもとより雪のような白胡椒も豊富」と紹介されています。マルコ・ポーロは日本を訪れたことはなく、中国での噂を書いただけなのですが、多くの冒険家がこの「東方見聞録」を読んでアジアを目指しました。彼らがアジアを目指したのはもう1つの理由もありました。それはインドの香辛料です。ヨーロッパでは手に入らない胡椒は、香りはもちろん、冷蔵庫のなかった時代に食品を保存する抗菌という意味でもとても貴重でした。胡椒をめぐる戦争が起きたりもしていたのです。

そうした背景のもと、コロンブスもインドやジパングを目指そうと航海計画をつくって、ポルトガルの国王に援助を求めますが、断られます。その後スペインのイサベル1世に援助を求め、最初はそれも断られますが、1492年のグラナダ陥落を機に支援を得ることができたのです。

天国にも勝る島

1492年10月12日、コロンブスはバハマ諸島のひとつに到着し、サン・サルバドル(「救世主」という意味)島と名づけます。彼は、その島をアジアの島と思い込み、ジパングを探します。周辺を航海し、キューバ島を発見したあと、12月6日にイスパニョーラ島を発見します。先住民が金の装身具を身につけ、金山もあったので、ここがジパングなのだと確信するのです。彼は死ぬまで、自分が到達したのはアジアだったと信じていたそうです。そう思い込んでしまった原因のひとつに、当時、地球が実際よりも2割ほど小さく考えられていて、コロンブスが計算したアジアまでの距離とバハマ諸島までの距離が一致していたからだと言われています。

コロンブスは、イスパニョーラ島に到着したとき「天国にも勝る美しい島だ!」と驚き、死ぬまで新大陸最初の都市サント・ドミンゴを愛したそうです。現在のサント・ドミンゴは植民地時代の面影が残る旧市街と近代的な新市街とがあり、旧市街は世界遺産にも指定され、コロンブスにまつわる歴史的建造物がたくさん残されています。

コロンブスの卵

「誰にでもできるようなことでも、最初にやるのは難しい」という意味で使われることばです。

第1回目の航海のあと、その祝賀会の席で「西へ西へと行けば、だれでも到達できる」と言われたコロンブスが、卵をとりあげて「この卵をテーブルの上に立てることはできますか?」と聞き、だれも立てられないのを見ると、卵の底をつぶして立てて見せ、「だれかがやった後なら何でも簡単です」と答えたというエピソード。これは実話ではなく、16世紀ごろイタリアのベンゾーニがコロンブスの偉業を紹介する著書の中で記載した作り話だと言われています。

ちなみに、「Columbus's Egg」と言っても欧米人にはほとんど通じないそうです。



「ジパング」というのは、中国語の「ジーベングオ」がなまったものです。また、ここから英語の「ジャパン」が生まれたそうです。



コロンブスの航海路

- 第1回
- 第2回
- 第3回
- 第4回



ヨーロッパ

アフリカ

大西洋

太平洋

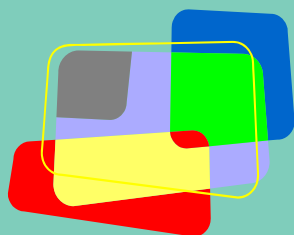
北アメリカ

南アメリカ



第3章

一緒に考えよう！こんな課題



1つの島に2つの国



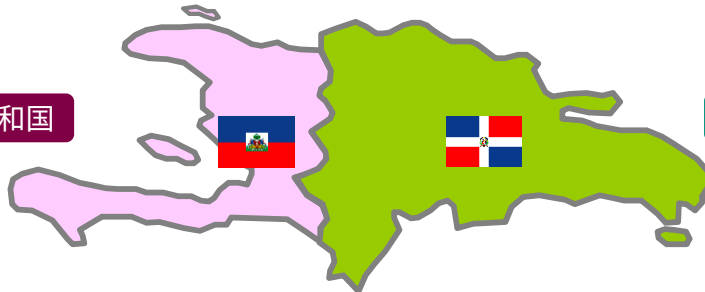
1492年コロンブスが到達してからさまざまな歴史を経て、現在、ドミニカ共和国とハイチ共和国がイスパニョーラ島を2分しています。

1

次の資料は、ドミニカ共和国とハイチ共和国の現状と歴史的事実を表したものです。ドミニカとハイチは隣国でありながら、残念ながら決して仲がいいわけではありません。この資料と解説を聞いて、気づいたことを話し合ってみましょう。どうして両国の関係はうまくいかないと思いますか？



ハイチ共和国



ドミニカ共和国

860万人 (2006年世銀)	人口	約975万人 (2007年世銀)
27,750km ²	面積	48,442km ²
フランス語・クレオール語	言語	スペイン語
アフリカ系約9割 その他混血	民族	混血73% ヨーロッパ系16% アフリカ系11%
480US\$ (2006年)	一人あたりのGNI	2,850US\$ (2006年)
54% (1995~2005年)	1日1US\$未満で暮らす 人の割合	3% (1995~2005年)
80% (2006年)	5歳未満児死亡率	29% (2006年)
190人 (2005年1,000人あたり)	HIVと共に生きる人の 推定数	66人 (2005年1,000人あたり)

- ★ 1844年ドミニカ共和国がハイチから独立します。
- ★ 1900年ドミニカで発行された切手にはイスパニョーラ島の地図が描かれていますが、その境界線をめぐって両国は戦争になってしまいました。
- ★ 1937年ドミニカの独裁者ラファエル・トルヒージョが約2万人のハイチ人を虐殺したといわれています。
- ★ 現在、50万人以上のハイチ人がドミニカ共和国のサトウキビ農園や建設現場などで働いていると言われています。
- ★ 日本人移住者が初めて到着した国境の町ダハボンの近くには「マサクレ川」という川が流れています。「マサクレ」というのは、大量殺人という意味があり、多くのハイチ人密入国者が殺されました。
- ★ 同じ島でありながら、ドミニカ共和国の国土の23%が森林であるのに比べ、ハイチにはたった1%しか森林がありません。
- ★ ドミニカ共和国とハイチの国境地域では、大量の移民が押し寄せ、「ハイチ人に国を乗っ取られる」と不安に思っているドミニカ人もたくさんいます。
- ★ 肌が黒いという理由でハイチ人と間違えられたドミニカ人少女が暴行を受けるという事件も起こっています。

2

例えばみなさんが国連のスタッフで、両国の関係をよくするプロジェクトを立ち上げるとしたら、どんなことをどんなスケジュールで、どんなやり方で進めますか？
グループで模造紙にプロジェクト企画案を作成してみましょう。



ドミニカ共和国...混乱の歴史

もともと、イスパニョーラ島には、アラワク族(タイノ人)という先住民が住んでいましたが、1492年コロンブスが島に到着し、1496年コロンブスの弟バルトロメ・コロンによって「サント・ドミンゴ」が建設されると、「新大陸」最初のスペイン植民地となりました。タイノ人は、島に金鉱山で酷使されたり、虐殺されたり、スペイン人がもたらした疫病にかかったりして絶滅してしまいます。やがて、サトウキビのプランテーションが導入されますが、先住民の代わりに労働力としてアフリカの黒人奴隷が連れてこられます。その後、

1697年	西側がフランス領サン＝ドマング(現ハイチ) 東側がスペイン領サント・ドミンゴ(現ドミニカ共和国)
1795年	全島がフランス領になる
1804年	フランス革命の影響による内戦でハイチとして独立
1814年	島の東側はスペイン領となる
1822年	再びハイチに島の東側も占領される
1844年	ハイチから独立してドミニカ共和国ができる
1861年	ドミニカ共和国は再びスペイン領となる
1865年	スペインから独立
1916年～1924年	アメリカ合衆国による軍事占領
1930年～1961年	トルヒーリオ将軍による独裁
1962年	30年ぶりの大統領選挙が行われる

こうした歴史があって、ドミニカの公用語がスペイン語、ハイチの公用語がフランス語となっているのです。ただし、ハイチでフランス語を話すのは人口の1割程度、ほとんどの人がクレオールしか話しません。クレオールというのは、特定の言語ではなく、意思疎通のできない人々の間で自然に作られた言語(ピジン語)が母語として使われるようになった言語のことをいいます。ハイチでは、アフリカ人奴隷のこぼにフランス語が混じってつくられたことばが公用語として使われているのです。

ドミニカとハイチの格差

ドミニカ共和国もハイチ共和国も世界の中では、開発途上国として位置づけられますが、特にハイチ共和国はアフリカ以外の国の中で最も所得が低い国となっています。ドミニカ共和国の一人あたりの所得はハイチの5倍に当たり、人口密度も人口増加率もハイチより低くなっています。そして物価はドミニカ共和国のほうが低いのです。

このような状況になってしまったのにはいくつかの原因があります。1804年フランスから独立したハイチは世界初の「黒人共和国」となったのですが、外国人をどんどん排斥し、プランテーションを破壊して経済的な基盤をなくしてしまいました。一方ドミニカ共和国は、外国人を排斥することも無く、経済的基盤も破壊されませんでした。それが、現在の民族構成や言語にも現れています。ドミニカ共和国は言語が通じるためどんどん外国人が移住し、技術が発展していくのです。

また、ドミニカ共和国は生活エネルギーを木炭から水力発電による電気に切り替えました。水力発電を機能させるため森林を保護します。一方のハイチは木炭を使い続け、どんどん木を伐採していきました。そのため、土地は荒れてしまうのです。

過酷な労働が必要な場では、ハイチ人に頼っているという現実もある一方で、不法にドミニカ共和国に入国しようとするハイチ人が増え、国境付近では常に緊張感が走っています。また、ハイチ難民の強制退去が国際的な問題になるなど、さまざまな問題が起こっています。

今、世界のさまざまな国で外国人労働者の問題は大きな課題となっています。ドミニカとハイチの問題も決して他人事ではありません。どうすれば、解決することができるのでしょうか？

もしも電気がなかったら～ドミニカ人的人生の楽しみ方～



ドミニカ共和国では、停電がしょっちゅう起こります。そんな時ドミニカ人は?

- 1 さて、もしも今日日本で大停電が起きて24時間電気がまったく使えなくなってしまうらどうなるでしょう? どんなことが起こるか、思いつくことをすべて模造紙に描きだしてみましょう。
- 2 それではもしも、そんな停電が1年に何回も起こったとしたら、しかもいつそれが起こるか分からないとしたら、みんなだったらどんな気持ちになりますか?
- 3 次の記事を読んで、感想を話し合しましょう。



停電対処のスペシャリスト

研究員 大澤 真美 (おおさわ まみ)

◆ニューヨークの大停電

2003年8月14日PM4時過ぎ、アメリカ北西部からカナダにまたがる北東アメリカで世界最大規模の地震が起こった。送電が停止された電力は約6000万キロワット。実に東京電力全体の供給量に匹敵するということだ。この大停電ではニューヨーク市も被害を受け、夜景の美しい摩天楼から光が消えた。止まった地下鉄から脱出する人々の姿やブルックリン橋の大混乱の様子をニュース番組で見た方も多いただろう。9.11のテロを経験したニューヨーク市民は比較的冷静に対応したそうだが、混乱に乗じた略奪の防止に4万人の消防、警察官が動員されたり、上空からヘリコプターで監視するなどの警戒体制が敷かれた。

◆ドミニカ人的停電の過ごし方

そんなニューヨークの一面で、全く平然とこの停電を過ごしている地区があった。いや、むしろ楽しんでいると言っていい。人々は家の外にテーブルとイスを出し、乾電池式ラジカセから流れるリズムカルなラテン音楽を聴きながら、くつろいだ様子でビールやラム酒を片手におしゃべりやドミノに興じている。「停電は心配じゃないんですか?」と聞けば、「Ella viene horita(電気はそのうち来るさ)」とスペイン語で答えが返ってくる。

マンハッタンの北部に位置するこのワシントン・ハイツはドミニカ(共和国)人地区と言われるほどドミニカ移民が多い。街はメレンゲやバチャータといったドミニカの音楽で溢れ、スペイン語が飛び交い、まるでドミニカ共和国の縮小版のようだ。

◆ドミニカ共和国の停電事情

筆者は4年半ほどドミニカ共和国に住んでいたが、この国にはやたらに停電が多い。1～2時間の短いものから半日以上の長時間停電までが、ほぼ毎日襲ってくることもあった。電気釜でご飯を炊いている時に停電が来ると悲しい。慌てて鍋に移してガスで調理することになる。「発電事業への外資の参入」「政府の発電会社への支払いの遅れ」「発電所の故障」「一般市民の電気料金未払い」など停電の理由は多々あるが、とにかく国民は停電に慣れている。停電が来ても「またか」と思い、電気が来れば街のあちこちから「電気が来たぞ!」の喜びの拍手が聞こえてくる。

何せ彼らは、飛行機が無事着陸しただけで拍手喝采する国民だ(嘘だと思う方は、一度サントドミンゴ行きの飛行機に乗ってみてください)。そんなドミニカ人だから、ニューヨークの大停電でも一際落ち着きを払ったものだった。

◆困難を楽しむ力

ドミニカ共和国のようなカリブの小国では、政府の在り方に国民の生活が振り回される。停電はもはや文化(?)と化してしまったのか、ある人は「コロンブスの時代から停電はあるさ」とうそぶいていた。電力事情一つをとってみても、ドミニカ共和国の生活が「発展」と呼ばれるところにはかなり遠いところにあることがわかる。しかし、そんな中できうる限り楽しんで生活しようという強さに私は感心する。

ちなみに、2006年7月に英国のシンクタンクが出した世界幸福度指標では、178カ国中ドミニカ共和国が27位、日本が95位、アメリカが150位だった。

ニューヨークの大停電で、真っ暗闇に流れるドミニカ人たちの笑い声や、軽快なラテン音楽は、そんな彼らの逞しさを如実に表している。(以下省略)

【未来工学研究所メールマガジン 今そこにある未来2007年8月28日号(第78号) より】



「幸せ」と「豊かさ」

P.21の記事に出てくる「**幸福度指数**」というのは、イギリスの環境保護団体が出している指標で、分子に「人生への満足度 × 平均寿命」、分母に「地球環境への負荷度（エコロジカル・フットプリント）」で計算され、国ごとにランキングづけされます。どんなに幸せであっても、地球環境への負荷が大きければ、ランキングは下がってしまうわけです。ちなみに、2006年に公表されたランキングでは、バヌアツ共和国が1位でした。

さて、世界の国々を学ぶとき、「幸せ」や「豊かさ」に関する議論がよくされます。何をもって幸せとを感じるか、豊かを感じるかは人それぞれです。たとえば、少し前まで「豊かさ」を測る目安として、国内総生産（GDP）に代表される経済的な指標が主に使われていましたが、最近では、「もの」に代表される物質的な豊かさ、経済的な豊かさだけでなく、心の豊かさなども含めた「総合的な豊かさ」を考えることが国際的にも広く認識されています。数十年前初めて来日したマザー・テレサ女史が日本について語ったことばは、多くの日本人の心につきさりました。

「日本に来てその繁栄ぶりに驚きました。日本人は物質的に本当に豊かな国です。しかし、町を歩いて気がついたのは、日本の多くの人は弱い人、貧しい人に無関心です。物質的に貧しい人は他の貧しい人を助けます。精神的には大変豊かな人たちです。物質的に豊かな多くの人は他人に無関心です。精神的に貧しい人たちです。愛の反対は憎しみと思うかもしれませんが、実は無関心なのです。憎む対象にすらならない無関心なのです。」

今の日本を見たとき、彼女は何と言うのでしょうか？

エコロジカル・フットプリントとBHN

上記「幸福度」を計算するときに出てくる**エコロジカル・フットプリント (EF: Ecological Footprint)** は、そのまま訳すと「自然生態を踏みつけた足跡」という意味で、人類による消費拡大や二酸化炭素の排出増加を、土地の広さに置き換えて表したものです。世界自然保護基金WWFが発表した『生きている地球レポート2008』によると、日本のエコロジカル・フットプリントは4.9ha／人。地球の「生物生産力」は2.1ha／人なので、もしも世界中の人が日本人と同じ生活をするならば、地球が2.3個以上 ($4.9 \div 2.1$) 必要だということになります。また、世界のエコロジカル・フットプリントの合計は2.7ha／人なので、世界中の人々が今のままの生活を続けていたら、いずれは地球を食いつぶしてしまうことになるのです（出典：http://www.wwf.or.jp/activity/lib/lpr/wwf_lpr_2008.pdf）。そのほか、地球の持続可能性を測る指標として、「ウォーター・フットプリント（人間経済に必要な水の量）」「フード・マイレージ（食品が消費者にとどくまでにどれだけの負荷がかかったかを表す指標）」などがあります。

一方で、**BHN (Basic Human Needs: 人間の基本的な生活要求)** と呼ばれるものがあります。わたしたち人間の生活基盤を構成する基本的な要素である、最低限必要な衣食住、教育、医療衛生などで、どこの国のどの人にとっても守られるべきものです。

つまり、「環境を大切にすること」と「人間として基本的な生活が送れること」とのバランスを取ることが大切なのです。「電気」についても、生活の中で本当に必要な電気とそうでないものとを区別して考えましょう。



ドミニカに渡った日本人



2006年東京地裁である判決が出されました。ドミニカ移民訴訟裁判です。

～はじめに～

このプログラムは、歴史的な事実を客観的に知り、現在の「多文化共生社会の実現」について考えることを目的としています。ドミニカの移民問題について考えること、感じることはそれぞれあると思いますが、ここでは、「だれがいい、悪い」ではなく、歴史を踏まえ、今、日本にきている外国人も含め、だれもが心地よく安心して過ごせる地域をつくるためにはどうすればいいかをみんなで考えてみましょう。

1 まずは、ドミニカ移民問題についての概要を知りましょう。

「カリブの楽園」をキャッチフレーズに、「肥沃な土地、広い農場が与えられる」と政府から募集された要項に基づき、1956年～1959年の間に249家族、1319人の日本人がドミニカ共和国に移住しました。そのころの日本は人口が急増し、仕事も十分になかったので、ブラジルやメキシコなど中南米への移住が推進されていたのです。ドミニカ共和国への移住もその1つでした。しかし、「肥沃な土地」は農業には適さない石だらけの土地、「広い農場」というのも聞いていた広さの3分の1にも満たない広さしかありませんでした。さらに、政治的な混乱からドミニカ社会が不安になっていたこと、自然災害が頻繁におこったことなども重なり、移住者たちは大変な苦労をしました。

2000年移住者や帰国者が日本政府を相手に訴え、2006年東京地裁は、当時十分な調査が行われなかったこと、ドミニカ共和国政府と十分な調整がされなかったこと、募集要項に十分な記載がされなかったことなどを挙げ、国の責任を認めましたが、20年以上経過していることから移住者の賠償請求は認められませんでした。しかし、小泉首相が、初めて公式に謝罪しました。

2 ドミニカ移民問題が起こってしまった原因の1つに、「正確な情報がきちんと伝えられなかった」ということが挙げられます。今、日本には多くの外国人が住んでいます。情報はきちんと伝わっているでしょうか？

もしかしたら、こんな情報が伝わっていないかもしれない、こんなことがわからなくて困っているかもしれないと思うことを、できるだけたくさん考えて、模造紙に書き出してみましょう。

3 では、それを少しでも解決するために、どんなことができるでしょう？ 思いつくことを話し合ってみましょう。

4 今考えたことをもとに、国籍や年齢や性別などに関係なく、だれもが安心して住める社会、つまり多文化共生社会を実現するために大切なことは何だと思いますか？



P.23のこたえと解説です。



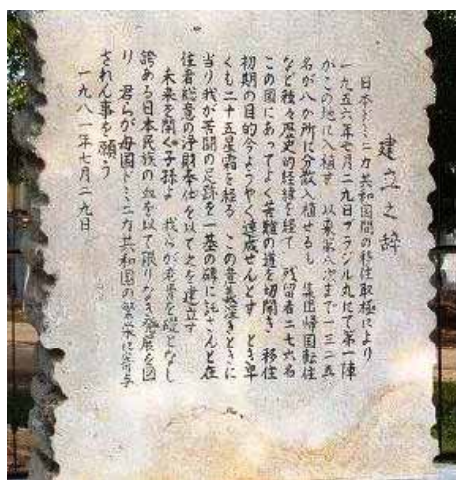
日系移民の歴史を知ることにより、日本に住む外国籍住民に思いをよせ、多文化共生社会実現に向けて自分にできることを考える。

「はじめに」について

ドミニカ移民問題はとても重たく、デリケートなテーマです。取り上げ方によっては、日本政府批判、ドミニカ共和国批判のみに終わってしまう恐れもあります。…といって、そうしたテーマを避けるだけでは、真の国際理解はできないとも考えます。参加者にあわせ、できるだけ客観的にフォローをしつつ、これからの多文化共生社会実現を考えるというところに焦点をあててプログラムを進めましょう。

ドミニカ移住50周年記念公園

ドミニカ共和国の首都サント・ドミンゴから北西に2時間ほどいったところにあるハラバコア (Jarabacoa) は、日本人移住者の多くが入植した町です。2006年のドミニカ移住50周年を記念して、公園がつくられています。



多文化共生社会実現のための情報提供

1990年(平成2年)の入管法改正以来、日本に住む外国人の数は急増し、2006年(平成18年)には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。そのプランでは、地域における多文化共生施策として次のような項目が挙げられています。これは、あくまで自治体の施策。わたしたち一人ひとりなら、もっといろいろできそうですね。

- 多様な言語、多様なメディアによる行政・生活情報の提供
- 情報提供による居住支援、入居差別の解消
- 学校入学時の就学案内や就学援助制度の多様な言語による情報提供
- 外国語対応可能な病院・薬局に関する情報提供
- 災害時の外国人への情報伝達手段の多言語化

ドミニカ移民問題に学ぶもう1つの視点

ドミニカに移住した方たちが苦勞した原因の1つに、ドミニカ社会が不安になったとき、外国人を排斥する動きがあったことが挙げられます。ドミニカの人たちからすれば、自分の国の土地を取られてしまうような気持ちになってしまったのかもしれませんが。

「多文化共生」というのは「外国人支援」とは違います。支援する側、される側ではなく、自分も含めたみんなが安心して心地よく暮らせるということなのです。たとえば、そこに住む外国人のことだけでなく、外国人を受け入れる日本人に対しても配慮が必要です。日本人同士でも考え方や価値観は多様なのです。



フォトギャラリー

 松尾摩耶



南西部に位置するパライソという町までの道



プラタノ売り



田舎の家族 全員集合！



おいしいジャムはいかが？
観光地でジャムを売る少女たち



イエーイ！
海辺で元気よくポーズ！！



漁のあと。
子どもだって魚を売ります。



これがおいしいチョコレートになる
カカオの実

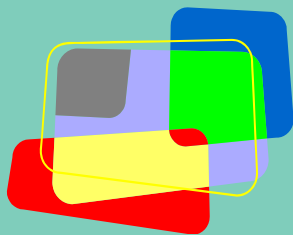


コーヒー豆をつぶす作業中



第4章

そして未来へ

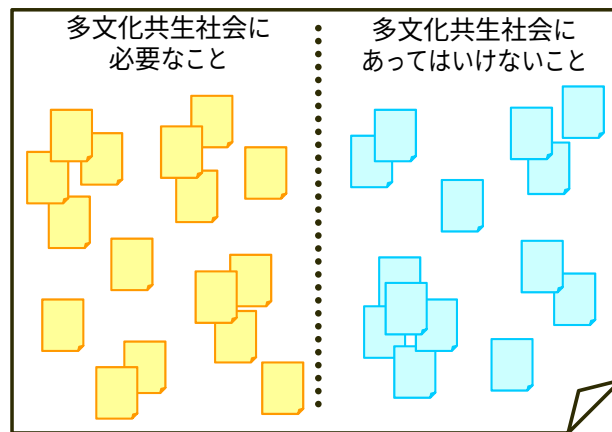


『多文化共生社会』ってどんな社会？

① 地球のみんなが一緒に生きていくということは
ということなのでしょう？



- 1 みなさんは、『多文化共生社会』ということばを聞いたことがありますか？
「多くの文化が共に生きる社会」というのは、いったいどんな社会でしょう？
「多文化共生社会に必要なこと」を黄色い付箋紙に、「多文化共生社会にあってはいけないこと」を青い付箋紙に書き出してみましょう。付箋1枚に1項目ずつ、できるだけたくさん書いてみてください。
- 2 4～6人のグループに分かれましょう。
各グループで模造紙を用意し、半分に区切ります。左側には「必要なこと」、右側には「あってはいけないこと」を貼っていきます。みんなの意見を共有するために、1人ずつ読み上げながら貼ってください。また、他のメンバーが似たようなものを貼った時はその近くに貼ってください。



- 3 模造紙にまとめたことをもとにグループで「多文化共生社会とは……な社会」という文章をつくってみましょう。
- 4 では、そんな社会を実現するために、私たちにできることは何でしょう？
一人ひとり、A4の紙に「私たちにできること7か条」を書いてみましょう。
- 5 一人ひとりがつくった7か条をもとに、グループで「多文化共生社会を実現するための7か条」にまとめ、右のように模造紙に書いてみましょう。
- 6 全員で発表し、感想を話し合きましょう。

多文化共生社会とは

な社会

そんな社会を実現する
ための7か条★

- ★1
- ★2
- ★3
- ★4
- ★5
- ★6
- ★7

号外！号外！20年後の新聞です



20年後の地域と地球はどうなっているでしょう？
どうなっているといいでしょう？

みなさんは新聞記者です。20年後の明日発行する新聞記事を書いているところです。

20年後はどんなニュースが新聞に載っているでしょうか？だれにでもわかりやすいことばでまとめてみましょう。

- 1 まずは、グループで新聞名を決めましょう。
模造紙を横にして半分に区切り、
新聞名と日付を書き込みましょう。

20xx年○月△日	20xx年○月△日

○
☆
新聞

- 2 20年後地域と地球がこんな風になっている
といいなと思うことを想像し、ニュース記事に
まとめてみましょう。模造紙の右半分に地域のニュースを、左半分に地球のニュース（あるいは、ドミニカ共和国
のニュース）を書きます。

- 3 全員で発表し、感想を話し合ってみましょう。

- 4 さて、今の生活を続けていったとき、ニュースにまとめたような地域や地球が実現できると思いますか？
実現するために、自分がやろうと思うことを1つ決めて、グループで共有しましょう。

多文化共生社会

1990年の入管法改正により、主に南米からの日系人が多く日本に住むようになりました。近所や学校、職場に外国籍の方がいるのがあたりまえの状況の中でことばの問題、文化・生活習慣の違いからくるトラブル、子どもたちの教育問題、近年の経済悪化による雇用の問題などさまざまな課題が生じています。そうした課題に取り組む中で目指しているのが、「多文化共生社会」の実現です。この「多文化共生社会」とは、「国籍にも、性別にも、年齢にも、障害の有無にも関わらず、すべての人が暮らしやすい社会」と位置づけられています。愛知県が2008年にまとめた「多文化共生推進プラン」では、愛知がめざす多文化共生社会を『国籍や民族などのちがいににかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らせ活躍できる地域社会』としています。そうした社会を実現するために、2006年には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。その中では、特に外国籍住民も暮らしやすい社会を創るために、次のようなことに取り組んでいくと書かれています。

● コミュニケーション支援

多言語による情報提供、相談窓口の設置、日本語学習の支援など

● 生活支援

入居差別の解消、教育にかかる情報提供、進路指導、就業支援、就業環境の改善、外国語対応可能な病院・薬局等の情報提供、医療通訳者の派遣、健康診断・健康相談の実施、高齢者や障害者への対応、災害時の通訳ボランティアの育成、災害時の情報の多言語化など

● 多文化共生の地域づくり

地域住民への啓発、多文化共生の拠点づくり、外国籍住民の地域社会への参画推進など

地球的課題 (グローバルイシュー)

一国では解決することが難しい、人類共通の課題を「地球的課題」「地球規模の課題」「グローバルイシュー」といいます。大きく分けると4つ。これらの課題は、包括的かつ相互的に関連しています。

● 地球環境

先進国の経済成長などに伴うオゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、海洋汚染、ごみ問題、野生生物の絶滅など地球規模で発生している課題です。

● 貧困と開発

南北問題に伴う貧困。それによる食糧不足、飢餓、衛生面での問題、教育の問題、児童労働など子どもや女性など弱者にかかる問題、持続可能でない開発による環境破壊など。地球規模の構造的な課題なので、途上国だけでは解決できません。

● 平和と安全

核兵器や生物化学兵器など、国境に関係なく被害を及ぼす兵器の根絶、テロの問題、地域紛争の解決と平和維持、児童兵士の問題などです。

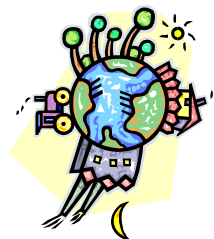
● 人権

民族差別や紛争などにおける難民の問題、貧困と開発のために過剰な労働を強いられる女性や子どもの問題、人間として最低限必要なものさえ保障されない極度の貧困の問題などです。

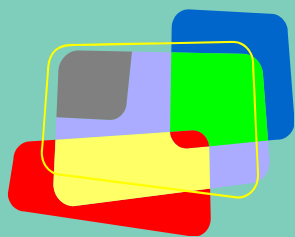
地域の課題と地球の課題はつながっている ～「持続可能な」社会を創るため～

地域の課題と地球の課題は別のものと考えてしまいがちですが、だれもが暮らしやすい「持続可能」な社会を創るという意味では共通しています。また、地域の課題を解決していけば地球の課題の解決にもつながりますし、地球の課題を解決しなければ、地域の未来もないのです。

地域の課題も地球の課題も「だれかが解決してくれる」ものではありません。途上国の多くの課題も原因を突き詰めていけば、わたしたちの日常生活につながってきます。わたしたち一人ひとりが地球の一員として、地域の一員として、自分の問題として、解決に向けて取り組んでいかなければ、次世代に課題を持ち越してしまうことになるのです。



参 考 資 料



目で見えるドミニカ共和国



1839年に、三位一体協会（トリニタリアン）の創設者であり、建国者でもあるファン・パブロ・デュアルテがこの国旗を考案し、1844年にハイチから分離、独立したときに制定されました。青は神、赤は祖国、白は自由を意味しています。紋章は、聖書と十字架を用いて”平和的”だということを示しています。

●人口●

 975万人（2007年世銀）



 128百万人



●面積●

 48,442km²
(九州に高知県を併せた広さ)

 377,887km²

●言語●

スペイン語

●宗教●

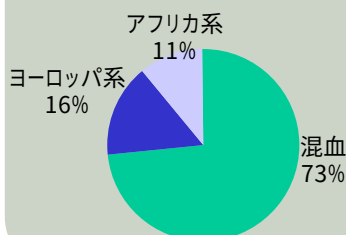
カトリック

●気候帯●

熱帯サバナ気候



●民族●

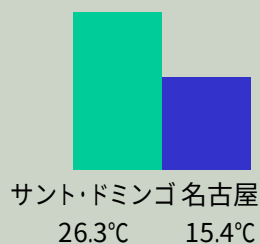


●通貨●

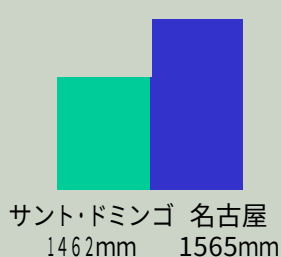
ペソ

1ドル=約34ペソ
(2008年7月平均)

●平均気温●

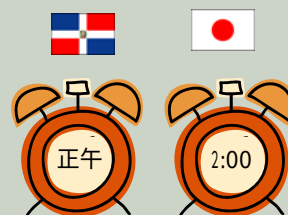


●年間降水量●



●日本との時差●

-13時間



◆国旗：『世界の国旗』吹浦忠正監修（Gakken）◆人口・面積・首都・民族・通貨：外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」◆日本の人口：世界子供白書2008（ユニセフ）◆日本の面積：総務省統計局「日本の統計」◆気候帯・平均気温・年間降水量：外務省ウェブサイト「探検しよう！みんなの地球」◆名古屋の平均気温・年間降水量：気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」（S46～H12年の平均）◆言語・日本との時差：世界の国一覧表（財団法人世界の動き社）

●主要産業●

観光、農業(砂糖)、鉱業(フェロニッケル)、軽工業(フリーゾーンにおける繊維、縫製業)



●日本との貿易主要品目●



フェロニッケル、医療用機材
カカオ豆、革靴、コーヒー



自動車等輸送機器、自動車部品
タイヤ

●一人あたりのGNI●



2,850米ドル(2006年世銀)



38,410米ドル(2006年世銀)



●在留邦人数●



850人(2008年10月現在)

●在日ドミニカ共和国人数●

453人(2006年12月現在)

●出生時の平均余命●



72年



82年



●都市人口の比率●



36%(2006年)



66%(2006年)

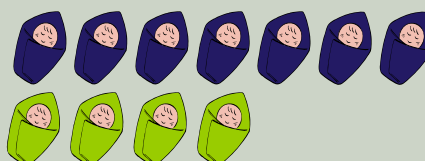
●5歳未満児の死亡者数●
(出生1000人あたり)



7人(2006年)



4人(2006年)



●成人の総識字率●
(2000~2005年)



87%



●初等教育
純就学/出席率
(2000~2006年)



92%



●人口増加率●
(1990~2006年)



1.7%



0.2%



◆主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数・在日ドミニカ共和国人数:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」◆一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率:人口増加率:世界子供白書2008(ユニセフ)

ドミニカ共和国地図







参考文献・データ等の出典

- 外務省「各国地域情勢」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- 外務省「探検しよう! みんなの地球」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html>
- 総務省統計局「日本の統計」
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>
- 財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2008」
<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>
- 『母なる大地の風 ドミニカ共和国』川島幸夫著 (Studio Winds Co. Ltd)
- 『ドレミファドミニカ』原田多美子著 (文芸社)
- 『ドミニカ移住の国家犯罪』小林忠太郎 (創史社)
- 『地球の歩き方 カリブ海の島々』(ダイヤモンド社・ダイヤモンド・ビッグ社)

ご協力いただいた方 [敬称略]

- 松尾摩耶 (JICA青年海外協力隊OG)



2008年度教材作成チーム

一宮市 田原市
長久手町 幸田町
扶桑町

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター
財団法人 愛知県国際交流協会



世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 ドミニカ共和国 

2009年3月

発行

愛知県

**企画
編集**

財団法人 愛知県国際交流協会

〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号

あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷

株式会社 丸和印刷



